

ブナの森の葉っぱ日記
記録集

アーティストの岩田とも子さんと只見の子どもたちが

ブナの森に秘密を探しにでかけました。

1回目のワークショップでは、森のいさもめたちが残した日記を見つけました。

2回目のワークショップでは、森のいさもめたちにお返事の日記を届けました。

子どもたちとブナの森のいさもめたちの交換日記をご紹介します。

アートによる新生ふくしま交流事業

「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」 福島芸術計画 2023

只見町のブナの森のこと

只見町役場ユネスコエコパーク推進係係長/只見町ブナセンター主任指導員 中野陽介

只見町は福島県の西の端っこ、新潟県に接した場所にあります。日本有数の豪雪地帯にある山間地域で、冬の最大積雪は2mを超えます。標高1,000m級の山々が連なり、これらの山々は豪雪の影響を受けて特徴的な形をしています。冬に降り積もった雪が春になると雪崩となり、山肌を削り取りながら流れ下るのです。そのため、斜面は急となり、地形は険しくなります。このように雪が没食した地形は「雪食（せっしょく）地形」と呼ばれます。只見の山はこの地形がよく発達しています。さらに、こうした険しく複雑な地形は多様な森林の存在を可能にしています。奥せた尾根にはキタゴヨウなどの針葉樹林、雪崩が下り落ちる急な斜面にはミヤマナラなどの低木林、緩やかな斜面にはブナ林、沢沿いにはトチノキ・サワグルミの溪畔林です。雪の没食のおかげで明瞭に分かれた尾根・斜面・谷などの地形にそれぞれ適した森林が見られるのです。只見町にはこうした森林が広大に広がり、ほとんど人の手が入っていない原生的な状態で残されています。こうした自然には、ツキノワグマ、イヌワシ、クマタカなど自然の豊かさを象徴する生き物たちが生息しています。また、ヒメサユリ、タダミハコネサンショウウオなど希少な生き物たちもいます。

ところで、只見町には縄文時代から人々が住みはじめ、この豊かな自然を持続可能な形で利活用しながら暮らしてきました。水、山菜・キノコの食料、燃料となる薪、家の柱、鳥や獣の肉など生活に必要なありとあらゆるものを集落周辺の山林から得てきたのです。今回のフィールドとなった深沢区余名沢のブナの森もそうした住民の生業の森であり、かつては燃料となる薪や炭を人間に提供していました。もちろん、多様な生き物たちの棲み処ともなっていました。現在は、この森で薪や炭を作ることはなくなってしまいましたが、大きく成長しつつあるブナの木々に只見の自然を感じていただけるよう里山のブナの森として整備を行いました。

こうしたブナの森での今回のプロジェクトを通して子どもたちが何かを得て、豊かに成長してくれることを願ってやみません。





想像力と漂わせろブナの森

アーティスト 岩田とも子

「葉っぱの表面に残された小さな穴やちょっと変わった模様」それはもしかしたらいきものたちが葉っぱの表面に残した日記かもしれない…葉っぱを日記に見立てて読むというこのアイデアをブナの森に重ね展開した今回のワークショップ。ブナの森は子どもたちの作品を通じて頼もしく応えてくれた。

ふわふわとした雲のような模様を持つ樹皮や、雪の重みで緩やかな曲線をもった樹形は見ていると空想的な気分させてくれる。そして今回、只見で初めて見たのはブナの葉っぱが降り積もった地面の下の様子。雪の重みで圧縮された葉の層はまるで古い書物（日記帳）のようになっていて過去の時間をペラペラりとめくれそうなものだった。ワークショップ中にもそんな地面をまじまじと子どもたちと一緒に見ながらいつ落ちた葉っぱだろうかと話してみたり、様々な種類の葉っぱを集めながらその葉っぱたちをじっと見てみたり、そんな素朴な時間を味わいながら自ずと作品が生まれてきたように思う。そして森で暮らしている小さな昆虫や大きな動物たち、その上を通りかかった鳥たち、さらには空の上でかがやく星や虹たちの日記が、子どもたちの“言葉”で読まれることとなった。

さらに2回目のワークショップでは葉っぱ日記が展示された森を歩いた。日記の中に流れる過去の時間に思いをはせつつ、その日その時を味わうように森の地面に寝転んで上を見上げてみたりして過ごした。そこで今度はその日のことを葉っぱに書いて（あるいは描いて）綴り森の地面にそっと残してきた。今頃、森の色んなものたちがその葉っぱ日記を読みに来ているかもしれない。

今も森の中には数えきれないほどの葉っぱが茂ったり落ちたり眠ったりしている。そのどこかに誰か、そして“何か”が綴った葉っぱ日記がまだまだ潜んでいる。ぜひ森を訪れた人も足元の葉っぱを見つめながらそんなことを想像し、心の中でその日の出来事を“言葉”として綴ってみてほしい。





ブナの森の葉っぱ日記

一回目のワークショップで

ブナの森でみつけた

森のいきものたちの日記。

只見の子どもたちの素敵な読み解きの

一つ一つの作品にしました。



ひかりのはは°

ひかりで見るときれいなぼつぼつがみえる



耳をなくしたうさぎ

かたっぼの耳をおとした！うさぎは、耳をさがしたよ。だれかがぼくの耳をもっている。だれかな？声をかけてみた。

土をほるはりねずみ

ゆめに続く土をほり続けるはりねずみ。
どんなゆめに行くのかな？



お星様は遊びほうだい

お星様とお星様であそんでいる。おにごっこ
やかくれんぼなど。





くまさんがみつけたのはは'とくもに♡
ハートができた。

きのうのおひる、くまさんが、かえるとき
そらにハートのくもがでてた。はっぱのあな
にもハートができた。



きつねの morning glow

今日の朝に、きつねが朝日を見た。

バラがみつけたふしぎな木のみ

バラさんは、あそんでいました。とちゅうで、ふしぎな木のみをみつけたのでそのにつきをかきました。バラさんはだんだんにつきをかくのがたのしくなり、きのみさがしがすきになりました。おわり



ヤマネがみた夜空

夜、寝ながら星をたくさんみたんだよ。
そしたら夢にも星がでてきたんだ。





てんぐのうちわ

今のきせつは秋。てんぐのうちわは「こうよう」
でてんぐのうちわは色が変わった。
そろそろこうかんしようかな。



いよいよみたいいばしま
つしまが来た。

きのうのあさのもりにいきました。
そしたらけむしみたいなはっぱがありました。
さわってみたらむにむにしました。



いも虫いっぱいだー!!

いも虫が葉を食べていたら、いも虫みたいにな
あとがついちやった!!



つるつるの葉

つるつるの葉っぱでテントウムシは
すべって下に落ちて上で体がよごれた。



きんのはっぱ

かたちがきりんみたい。
いろもおなじいろ。
めとはなとくちがあった。



まわりがはりねずみ

まわりがはりねずみみたいで おもしろ
かったです。



ちいさなアヒル

森のなかをふらふら歩くとなんかアヒル
のかたちの葉っぱがあった。



小さいペンギン

森のなかにペンギンのはっぱがありました。



とモンの木をみながら分りを見る。

レモンのはっぱをみながらそらを見る。



もっと大きいのはっぱもみちた

いも虫がたびにいった

このはっぱでうまれた。つるつるのはうばの
おうちにいた。



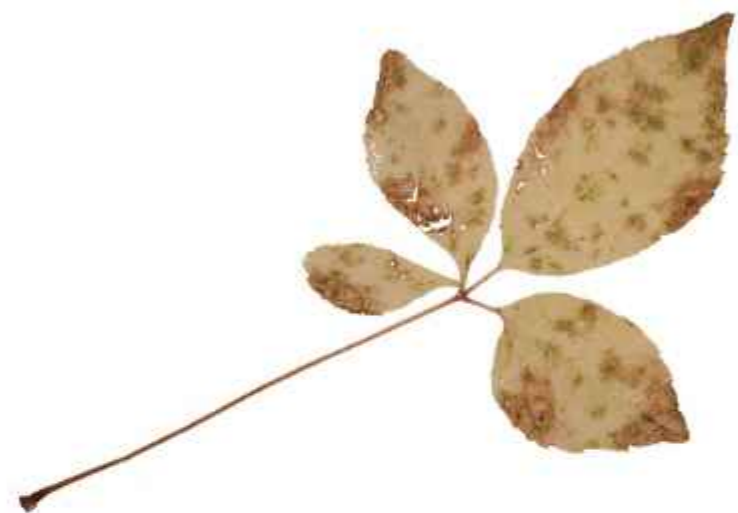
ミミズの breakfast !!

おとといの朝、この葉っぱを食べにきたぞ。
ちょっと食べて気づいたけどこの葉っぱ
枯れてるや、おいしくないぞ。



へびがどくをばっしらする。

へびが体からどくをだしている。



ブナのもりの そめもの やさん

春から秋にかけて、季節のいろいろな色を集める森の染め物屋さんの描く木の葉日記。ところどころレースの透かし編みもほどこしました。紅や黄や茶の季節に浮かび上がるような淡いグリーンの仕事に。



レモンの木をみながう海へ行く

レモンの木を見て出かけプールや森、海で夏の思い出を作り、よぞらを見て、かいがらを見ながら水遊びをする。一日中プールや森や海に行きかいがらを見つける。

しおっぱさー大きい

はっばさがしげーむでーかい
めに大きなはっばをみつけま
した。その大きさ、たんいは
たて41cm、よこ23cmでした。



ぼくのいそがしい一日

今日は森の中にすんでいるへび
さんちにあそびにいきました。へ
びさんはやさしくて「どうぞど
ぞ」とむかえてくれました。へび
さんとは でんしゃごっこや木の
ぼりをしました。おやつはするめ
でした。こんな山のなかで海のも
の?!!!ってびっくりしまし
た。あっというまに時間はすぎ、
かえってきたのはもう6時!日記
を書いたけどかみがやぶれてし
まったよ。





はっぱのたべられたかたちがかめみたいでした。



オナフシとトゲがごはんを一緒にたべて

いる。



flying Fish ~ In the Tadami ~

今日の昼、魚が海からこの美しい只見の
山脈へゆっくりとはばたいてきました。



おほしさまのかくれんぼ

おにごっこしてあそんでた。
かくれんぼした。
うちゅうからきた。



2匹はやがて1枚に

今日の昼、雨でぬれたカエル2匹が飛びはねながら遊んでいるのを発見。

その後に、2匹は1枚の葉になった。



鳥の flapping wings

昨日の朝、鳥が葉っぱをついばみ鳥の形になった。その後葉っぱが落ちて日記になった。



朝と夜があそぶ

夜明け前。

朝の光と夜の闇が森の中で一緒に遊んだ。

その上を流れ星がヒュンととんでいった。



むしとくま

♡♡うしのかお○○○ビーだま



木とつながいどろはっしよ

木みたいなほね組みみたいなふうでにじゅう
になってるみたい。



トヨネルとぶとどうのみ

むしのトンネルとぶどうマスカットののみ。



むかしは葉は、今は虫

穴からおちてずっと時間がすぎて気づいたら
てんとう虫になっていた。
まーいっか、虫でも。



へびがすきそう。

いるともようがおなじつるつるしてへびが
すきそうなさわりごち。



にじさんがかいた、いき

にじさんはあめあがりに、山もみじをみつけて、そのめもをかきました。にじさんは、それがじふんににていておきにいりになりました。その色は、みどり、きいろ、おれんじ、あかいろでした。にじさんはとてもきにいりました。おわり

ブナの森の葉っぱ日記が
生まれるまで、生まれてから

2回のワークショップで生まれた
ブナの森の葉っぱ日記。
ワークショップの様子と
作品になった葉っぱ日記をご覧いただいた
成果展をご紹介します。

葉っぱ日記を読む

10月29日(日) 13:30~16:00

探検した森 余名沢の森
日記を読んだ場所 湯ら里駐車場
参加してくれた人 只見町の子どもたち、只見高校生

10月30日(月) 15:00~17:00

探検した森 余名沢の森
日記を読んだ場所 湯ら里駐車場
参加してくれた人 放課後子ども教室の子どもたち

1回目のワークショップはブナの森のいきものたちの日記探し。
余名沢の森の入口で岩田さんから森に入る時の「大事な約束」を聞いた後、奥に広がるブナの森を目指しました。途中、気になる葉っぱがあったら袋に集めます。葉っぱだけでなくカエルやカマドウマをすぐに見つけたのはさすが只見の子どもたち。いきものを見つける目が養われています。沢を越え、道を登りたどりついたブナの森は圧倒的な存在感がありました。
「大きなはっぱを探してみて」「とっても小さい葉っぱを探してみて」「きれいだなと思った葉っぱを見つけて」
岩田さんのいくつかの投げかけに導かれて気になる葉っぱを探していきます。
たくさんの気になる葉っぱを袋に集めたら、只見町ブナセンター主任指導員の中野さんに地面の下にいる葉っぱについて教えてもらいました。秋に枝から落ちた葉っぱは長い冬を雪の下ですごします。そうして毎年降り積もった葉っぱの層を見せてもらったのです。ブナの森の秘密をわけてもらったような気持ちになりながらブナの森を後にしました。余名沢の森に隣接する温泉施設・湯ら里の駐車場では、ゆっくりと葉っぱたちを見つめながら、葉っぱに残された森のいきものたちの日記を読み解きました。



葉っぱ日記を書く

11月12日(日) 10:00~12:00

日記を書いた場所 余名沢の森

参加してくれた人 只見町の子どもたち

2回目のワークショップではブナの森のいきものたちへ、日記で返事を書きました。

ワークショップ前日。1回目のワークショップで子どもたちが読み解いた葉っぱ日記を一点ずつパネルにしたものを、会場となる余名沢のブナの森の幹に只見町ブナセンターの中野さんたちが展示してくれていました。

ワークショップ当日、森に入ると、ブナの森を飾る作品たちに子どもたちも大人も大興奮。作品になった日記を読みながらブナの森の中央へと向かいました。ブナの森に入ったら森と仲良くする時間。前回中野さんに見せてもらった地面の下を感じながら森に寝転がります。なかには気持ちよくて眠ってしまった子も。森の一部になった気分を感じたら、中野さんたちがあらかじめ準備してくれていた葉っぱから好きなものを選んで、森のいきものへお返事の日記をペンで書いていきます。大きな葉っぱ、細長い葉っぱ、カラフルな葉っぱ。選んだ葉っぱに言葉や絵で日記を書きました。次に日記を集めた日記帳をつくります。ブナの森の中央には只見町の木でつくった岩田さん考案の大きな日記帳の枠が置かれていました。みんなで日記帳の枠に森のいきものたちや地面の下の葉っぱの層を描いたら完成。カラフルな日記帳ができました。ブナの森のいきものたちが、きっと読んでくれることを期待しながら、その中にさきほど書いた葉っぱ日記をそっと置いて森を後にしました。



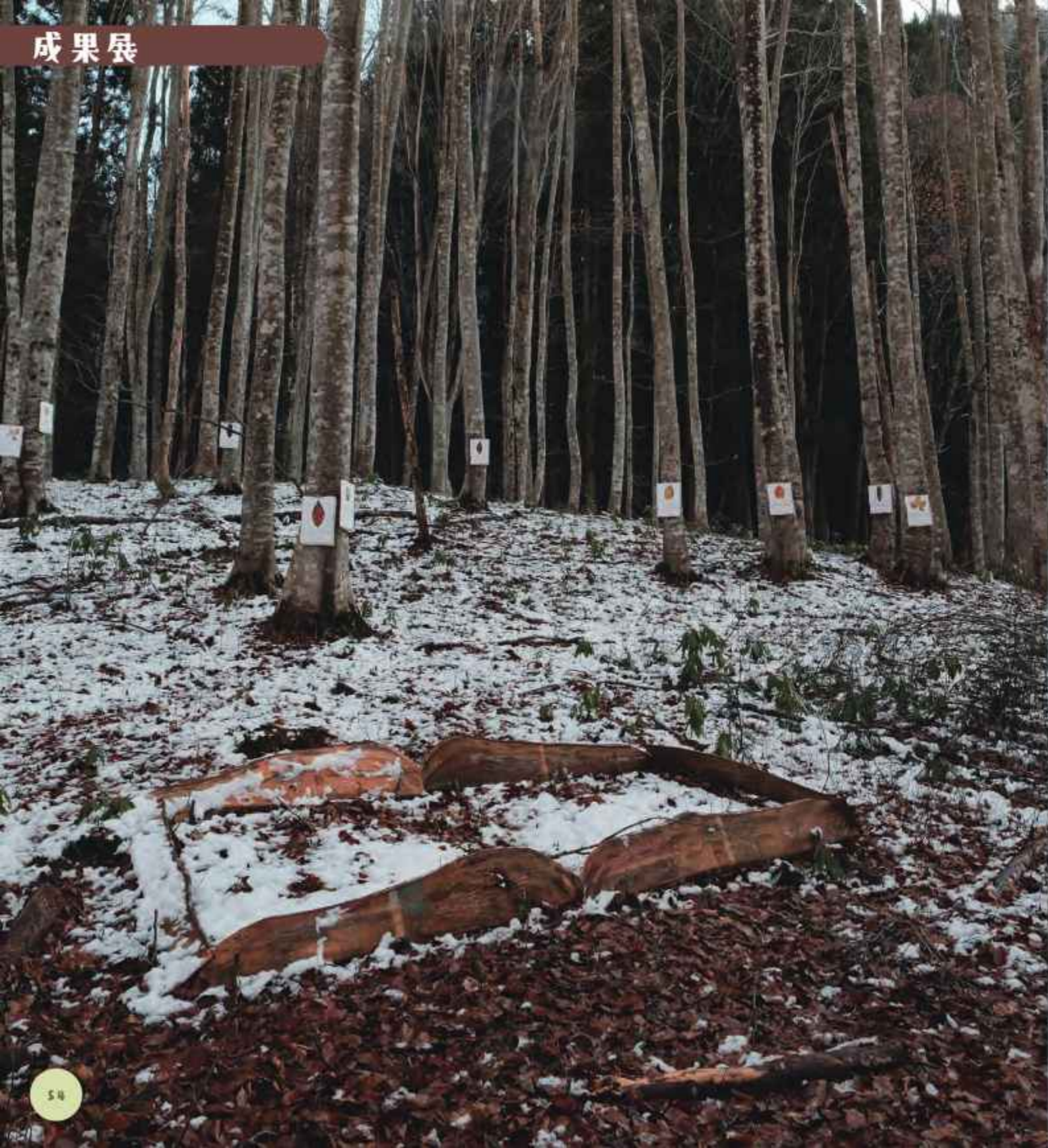
ブナの森のはっぱ日記

会期 11月12日(日)～本格的な冬が余名沢の森にくるまで(12月中頃)
会場 只見町 余名沢の森<季の郷 湯ら里(只見町長浜字上平50)から歩いて10分>



森で出会った葉っぱたちからさまざまな森のいきものの日記を読み解いた1回目のワークショップ。ブナの森でひろった葉っぱに自分たちの日記を書いて大きな日記帳として森に残した2回目のワークショップ。

それらの只見の子どもたちとブナの森のいきものたちの交換日記を成果展としてご覧いただきました。本格的な冬がやってくるまでが会期。2023年の初雪が積もった11月下旬にブナの森はうっすらと雪化粧し、12月中旬には本格的な積雪に。秋から冬へ移る季節にあわせて姿を変えるブナの森の美しさも一緒にお楽しみいただける、只見ならではの展示になりました。



1 まずはいろんな葉っぱを探す

小さな葉っぱ、大きな葉っぱ、色や形が不思議な葉っぱを探そう。
試みに目をつむって拾ってみたらどんな葉っぱと出会えるかな？

2 葉っぱをよく観察

葉っぱをそーっと触ってみたり、光に透かしてみたり、匂いをかいでみたり。
葉っぱが森の中で過ごした時間を想像してみよう。いろんな日の痕跡が残っているかもしれないよ。

3 葉っぱ日記を読もう

人だったら文字や絵で日記を書くけど、例えば虫、動物、光、雨、風たちが葉っぱに日記を書いたとしたら？人とは違う方法で葉っぱに日記を残しているかもしれないよ。想像しながらあなたの“言葉”にして読んでみよう。その日記がいつ書かれたのか想像してみるのも楽しいよ。

4 葉っぱ日記を書こう

葉っぱ日記を読んで森で楽しく過ごしたら、今度は人の“言葉”で葉っぱに日記をかいてみよう。ブナの葉っぱはまるでノートみたいにきれいな線（葉脈）があるよ。そこに森での出来事を日記にかいてみよう。

湯ら里からブナの森までの道

思わず寝転びたくなるようなブナの森の中に37枚の葉っぱ日記が展示されています

紫のルートで戻ることもできます

赤いルートは歩いて15分

小沢を渡って10歩くらい進んだ先をみると日記が次々とみえてきます
ブナの森まで道案内をしてくれます

ブナの森の葉っぱ日記帳

- ・注意事項：ブナ林の観察のみを目的とする方は、湯ら里の遊歩道（湯ら里の湯ら里）をご利用ください。
- ・歩道には設置された看板を必ずお読みください。ブナ林内には地質調査局の看板が設置されていますので必ずお読みください。
- ・植物や動物、山菜、キノコ、土壌の採取はしないでください。
- ・ゴミは持ち帰りください。
- ・野生動物に対しては、観察する地域で採集、殺すような行為は行いません。
- ・火、燧などの火の種は持ち込まないでください。
- ・野外に缶やペットボトルを放置しないでください。
- ・動物の糞尿は必ず持ち帰り、処理してください。
- ・動物の糞尿は必ず持ち帰り、処理してください。
- ・動物の糞尿は必ず持ち帰り、処理してください。

日記に登場した葉っぱたち
(あじろスお順)

P10
アカイタヤ
Acer pictum subsp. maximii
<ムクロジ科>
落葉高木。春先の芽吹きの際の葉っぱは赤く目立つ。只見町ではハナノキと呼ばれる。

P31
イワガラミ
Hydrangea hydrangeoides
<アジサイ科>
落葉つる性木本。幹などから吸着根を出して、他の樹木を這い上り、成長する。

P13, 26, 28, 36, 42
ヒトツバカエデ
Acer distylium
<ムクロジ科>
カエデの仲間は掌状に葉に切れ込みがあることが多いが、本種は切れ込みのない丸い葉が特徴。別名マルバカエデ。落葉高木。

P23, 25
ヒメアオキ
Aucuba japonica var. borealis
<アオキ科>
常緑低木。太平洋側の温暖地域にはアオキが分布し、日本海側の多雪地域にはヒメアオキが分布する。

P11, 21, 45
エゾユズリハ
Daphniphyllum macropodum subsp. humile
<ユズリハ科>
太平洋側の温暖地域にはユズリハが分布し、日本海側の多雪地域にはエゾユズリハが分布する。常緑低木。

P41
オオカメノキ
Viburnum furcatum
<ガマズミ科>
落葉低木。ブナ林の林床で春に白い花を咲かせる。別名ムシカリ。

P22
オオバクロモジ
Lindera umbellata var. membranacea
<クスノキ科>
落葉低木。関東以西に分布するクロモジの変種。楊枝や箸、かんじき、ザルの縁に使われる。

P16
ツルアリドオシ
Mitchella undulata
<アカネ科>
地を這いながら成長する常緑つる性の多年草。茎先に白い花を二つ並んでつけ、後に熟すと赤くなる果実をつける。

P15, 17, 39
ブナ
Fagus crenata
<ブナ科>
只見町をはじめ、雪国を代表する樹木。種子は栄養豊富で、ツキノワグマの大好物。落葉高木。

P24, 32, 34
ホオノキ
Magnolia obovata
<モクレン科>
落葉高木。只見町のブナ林でブナの次によく出てくる樹木。人の顔の大きさよりも大きな葉が特徴。

P14, 30
コシアブラ
Chengiopanax sciadophylloides
<ウコギ科>
樹高10m以上になる落葉高木。新芽は山菜の代表格として人気。

P29
シシガシラ
Struthiopteris niponica
<シシガシラ科>
常緑性シダ植物。比較的しっかりした葉が束になって生え、放射状に広がる。

P19
スギ
Cryptomeria japonica
<ヒノキ科>
常緑高木。只見町の多くのスギはかつての採草地に戦後植林されたもの。

P38
フジ
Wisteria floribunda
<マメ科>
落葉つる性木本。他の木に巻き付いて登り、光を得ようとする。締め付けられた木はやがて枯死する。

P20
ヤマブドウ
Vitis coignetiae
<ブドウ科>
落葉つる性木本。葉が変形した巻き髭を他の木に巻きつけよじ登り成長する。樹皮がかご編みに利用される。

P12, 18, 37, 43, 46
ヤマモミジ
Acer amoenum var. matsumurasae
<ムクロジ科>
ブナ林の中で普通に見かけるカエデの仲間の落葉高木。紅葉の色は黄色、紅色だが、カエデの仲間の中では地味。

P40
クリ
Castanea crenata
<ブナ科>
落葉高木。初夏に白い花を咲かせ、独特の匂いを漂わす。秋にできる実は栗ご飯などにして食される。

P33
ゼンマイ
Osunda japonica
<ゼンマイ科>
湿った環境に生育するシダ植物。只見を代表する山菜で、かつては只見のゼンマイ価格が全国価格に大きな影響を及ぼした。

P35
タラノキ
Aralia elata
<ウコギ科>
落葉低木。新芽は言わずと知れた山菜の王様。幹や葉には鋭い棘があり、野生動物から身を守っている。

P27
チゴユリ
Disporum smilacinum
<イヌサフラン科>
多年生草本。春に、茎の先端に小さな白い花を一つ咲かせ、後に黒色の実をつける。

P44
ミヤマガマズミ
Viburnum wrightii var. wrightii
<ガマズミ科>
落葉低木。やや明るい環境を好んで生育している。近縁種のガマズミに比べ葉の光沢が強い。

葉っぱの植物の名前などは以下のように書き方、意味になっています。

- 和名 (カタカナ、日本での種の名前)
- 学名 (アルファベット、世界共通の種の名前)
- 科名 (その種が属するグループの名前)

ワークショップ講師

岩田とも子 いわたともこ

アーティスト。1983年神奈川県出身。2008年東京藝術大学大学院先端芸術表現専攻修了。地面や太陽といった誰にとっても身近でありながら宇宙的なサイクルを想像させる事象に注目し制作を続けるアーティスト。自然観察・採集をワークショップに取り入れ、そこで出会った自然物に対する素朴な視点、そこからはじまる学びと表現を大切にしている。初めて只見を訪れたのは2018年。ブナの森で集めた自然物から様々な道具を想像し表現する「ブナの森の道具屋さん-お客は森の生きものたち-」のワークショップと展覧会を地元の子どもたちと展開した。

令和5年度アートによる新生ふくしま交流事業
アートで広げる子どもの未来プロジェクト 福島芸術計画 2023

ブナの森の葉っぱ日記

主催：福島県/只見町ブナセンター

協力：只見町教育委員会、ただみコミュニティクラブ

企画運営：福島県立博物館 川延安直、西尾祥子、小林めぐみ 只見町ブナセンター 中野陽介、新国万寿美

事業受託者：認定特定非営利活動法人ドリームサポート福島（福島市）

アートで広げる子どもの未来プロジェクトは、福島を未来を担う子どもたちに、将来「新生ふくしま」を推進する人材として活躍してもらうため、多彩なアートプログラムを体験できるワークショップを実施することで心豊かな成長を支援します。

ブナの森の葉っぱ日記記録集

テキスト：岩田とも子、中野陽介、小林めぐみ

撮影：中野陽介、川延安直、小林めぐみ

編集：小林めぐみ、西尾祥子、川延安直、塚本麻衣子、中野陽介、新国万寿美

デザイン：藤城光

発行：福島県

この事業は、国内外からお寄せいただいた寄附金をもとに造成された「福島県東日本大震災子ども支援基金」により実施しています。